

令和2年度 県立下館工業高等学校自己評価表

目指す学校像	1 心身ともに健康で、互いを尊重する豊かな人間性を培い、次世代を担っていく人材を育成する学校。 2 工業に関する知識・技術を身に付け、堅実な職業観を持った産業の発展に寄与する人材を育成する学校。 3 進学や就職など生徒の希望する進路の実現を図り、地域から信頼される進路選択肢の広い学校。				
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況		
重点目標の達成状況は5段階評価でB段階であった。 進路面では、進学者75名（四年制大学30名）であり、なかでも難関大学にチャレンジする生徒が増えてきている。就職では厳しい社会情勢の中、進路ガイダンスや個別面談等により、生徒の希望と適性を考慮した指導の結果、希望進路実現をほぼ果たせ、就職率100%を誇る。 資格取得においても、第二種電気工事士や2級ボイラー技士では全国でもトップクラスの合格率を誇っている。ジュニアマイスター制度ではゴールドに2名、シルバーに8名、ブロンズに28名が該当した。 今年度は、さらに基礎力の向上を図ると同時に、学校行事等を通してコミュニケーション能力の質を高め、社会性豊かな人間育成に努める。	1 基礎学力の向上と、個に応じた学習指導の徹底（学びなおし・進路指導）	1 アクティブ・ラーニングを推進し、主体的・協働的で深い学びの推進を図る。 2 外部試験の評価を活用するなどして、学習意欲の向上と更なる能力開発に努める。	A		
	2 基本的な生活習慣の確立と、規範意識の育成（挨拶・公共の場でのマナー）	3 生徒一人ひとりの個性を活かし、確かな生活目標を持たせ支援する。 4 家庭や地域・関係機関との連携を深め、非行や問題行動等の未然防止を図る。	B		
	3 地域と連携した学校づくりの推進（開かれた学校づくり・近隣高校との連携）	5 近隣職業関係高校（農業・商業）と連携し、地域のコンソーシアムの設立を目指す。 6 学校広報力の強化を目指し、Webページの充実、ポスター等の制作を行う。	B		
	4 生徒の主体的な活動の充実（部活動・ボランティア活動）	7 特別活動の充実を図り、生徒の自主的実践的態度の育成に努める。 8 部活動の全員加入の推進と生徒ケアを図り、健全な心身を育成する。	B		
	5 安全教育の徹底（防災安全・授業中の事故防止）	9 地元警察署等と連携し、交通安全指導等の徹底を図る。 10 実技・実習等における5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の徹底を図る。	B		
	6 働き方改革の推進	11 教職員の同僚性、協働性を高め、業務分担が偏在化しないようにする。 12 勤務時間や業務内容等の適正化を図るためのPDCAサイクルの確立を図る。	B		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教科指導	国語	基礎学力の向上を図る。	授業及び家庭学習において国語力の定着を図るための教材を準備する。	1 A	タブレットを使った学習方法や、ICTの活用について検討する。
		読書を通し豊かな人間性を培う。	小テストを利用して理解度を把握するとともに、学習の習慣を身につけさせる。	1 A	
		就職・進学指導の充実を図る。	朝のプリントおよび、漢字検定を実施することで、生徒の学習意欲と進路意識を高める。	1・3 B	
			個々の進路に応じた、一般常識や作文・小論文の指導を徹底する。	3 A	
			わかりやすい授業展開および板書を心がけ、補講等により理解の不十分な生徒への対応を図る。	1 B	
	地歴公民	基礎学力の向上を図る。	進路実現に対応した一般常識の定着を図る。	1・3 B	調べ学習や生徒の興味・関心を高めるために、タブレット端末を用いた学習とICTを活用した授業内容を検討する。
			ノートを定期的に点検し、学習の理解度などを把握する。	1・3 A	
		学習内容を理解する喜びを実感できるようにする。	視聴覚教材や、新聞・地図・図表などの活用を心がけ、ICT教育を積極的に取り入れる。	1 A	
			修学旅行先等各地の地理・歴史・文化を授業等で取り上げ、生徒が関心を持つ授業に努める。	1 C	
			生徒の実態に即した授業展開を図る。	1 A	

※評価基準 A：大変よくできた B：よくできた C：ふつう D：やや不十分 E：不十分

教科指導	数学	基礎学力の向上に努める。	生徒の習熟度に応じた教材を精選し、授業での個別指導等を通してきめ細かな指導を行う。	1	A	A	自ら学習に取り組む姿勢や基礎学力を目指し、授業展開を工夫しながら継続的な指導に力を入れる。
			レクイエンステスト、単元別テスト、定期考査等を利用して学習の理解度を把握し、不十分な生徒には補講を実施する	1	A		
			進学希望者への課外授業等を通して学力の向上に努める。	1・3	B		
				1	B		
	理科	基礎学力の向上を図る。	工業高校で学習する上で最低限必要な物理と化学の知識及び学力の定着に努める。	1	A	B	物理の授業では、特に計算力の向上に努める。科学では、身近な現象に興味を持たせ、環境問題等への意識を持たせる。
			プリント学習等を利用して学習の理解度を把握し、不十分な生徒へは補講を実施する。	1	B		
		理科の楽しさを実感する授業に努める。	実験を実施することにより理科への興味関心を惹きつける。	1・3	B		
		家庭学習の定着に努める。	課題・プリント・実験レポートを定期的に提出・点検することにより、自ら調べ学習する意識を定着させ、家庭学習に結びつける。	1・3	B		
	英語	基礎学力の向上を図る。	小テスト等を実施し、授業での学習内容の定着を図る。	1	B	B	パフォーマンステストなどを積極的に実施し、言語活動を重視したよりよい授業を目指す。
			ノートやプリントを定期的に点検し、学習状況の実態を把握する。	1	B		
			課題等を与え、家庭学習の習慣をつける。	1	B		
			課外を実施し、進学希望者の実践的学力の向上を図る。	1・3	B		
学習指導の工夫に努める。		英語の授業は英語で行うことを基本とし、生徒に積極的な言語活動を促す。	1	C			
		ALTと協力し、コミュニケーション活動の活発化を図る。	1	A			
保健体育	基礎体力および技能の向上を図る。	毎時間の授業の中で体づくり運動を取り入れる。	1	A	B	科目「保健」における授業展開の工夫とICTを活用した体育授業について検討する。	
		技能の未熟な生徒や到達目標に達していない生徒に対しては、段階に応じて個別指導を実施する。	1	A			
	運動の楽しさや喜びを実感できる授業の展開を図る。	ゲームを通して運動量を確保し、種目の特性を理解できる機会を多くする。	1	A			
		勝敗を競い合うことの楽しさ、仲間と協力して達成する喜びが実感できる指導に努める。	1	B			
	自らの健康について関心をもち活力ある生活を営む態度を育てる。	喫煙・飲酒・薬物乱用が健康に及ぼす影響について、学校生活全体を通して徹底指導を図る。	3・4	B			
		基本的な生活習慣を身につけさせるとともに適切な意志決定・行動選択をする力を培う指導に努める。	3・4	B			
家庭	家庭生活に関する基礎的・基本的な知識と技術を身につけ、実生活に生かす力を養う。	授業への取り組みや課題等の提出状況を確認し、理解度を把握する。	1	B	B	生徒の実態に合わせた指導の工夫を目指す。	
		実験・実習を通して基礎的・基本的技術力の向上を図る。	1	A			
	学習指導の工夫に努める。	教材や資料の利用を工夫し、生徒の理解を深める授業を行う。	1	B			
		実験・実習など安全かつきめ細やかな指導をする。	1	A			

※評価基準 A：大変よくできた B：よくできた C：ふつう D：やや不十分 E：不十分

美術	美術を愛好する心情を育成する。	絵画を通じデッサン，色彩，構成，材料や用具の生かし方などの技能の修得を図る。	1	B	B	生徒の個性を引き出し、のびのびとした創造活動を行えるような課題や教材作りを目指す。
		意図に応じた多様な表現方法の工夫ができるようにする。	1	A		
	感性を高め創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。	機能と美しさや楽しさを考えた主題の生成を図る。	1	B		
		鑑賞に関して，作者の心情や意図と表現の工夫を理解させる。	1	A		
	個性豊かな美術の能力を高める。	デザインを通じ生活を心豊かに想像する主題の生成を図る。	1・3	B		
音楽	鑑賞力を養う。	主体的・能動的に音楽鑑賞ができるよう事前学習を徹底する。	1	A	B	興味関心をもって授業に取り組めるよう教材を吟味し、指導方法の工夫を図る。
	音楽を愛好する心情を育て豊かな情操を養う。	様々なジャンルの音楽を通して創造的な表現力の育成を図る。	1	B		
機械科	機械工業の基礎技能の向上を図る。	授業の内容が理解できるように，生徒に課題提出や補習等を実施する。	1	B	B	学習活動への興味関心が高められるように努める。資格取得の奨励と合格率を高める工夫を目指す。
		専門教科・科目に興味を持たせる指導の工夫を図る。	1	B		
		授業や補講により，資格取得の支援に努める。	1	B		
	安全の確保や事故の防止	安全教育の実施及び事故防止に向けた安全管理の徹底に努める。	10	A		
電気科	基礎学力の定着を目指す。	授業や実習を充実させるために，教材研究を積極的に行い指導内容の見直しを図る。	1	B	B	実習内容の見直しと、わかりやすい授業の工夫につとめ、資格取得を奨励し、基礎学力の定着を図る。
		わかりやすい授業を試み，成績不振な生徒に対しては課題や補講で対応する。	1	B		
	資格取得の実績を上げる。	教科指導，資格指導を担任と連携し積極的に行う。	1	A		
		電気科の基幹資格である第二種電気工事士について，受験者全員の合格を目指す。	2	B		
		進路指導を担任・学年と連携し，計画的に行う。	1・3	B		
	安全の確保や事故の防止	安全教育の実施及び事故防止に向けた安全管理の徹底に努める。	10	B		
建設工学科	基礎学力の向上を図る。	小テストを実施して理解度を把握し，不十分な生徒へは補講を実施する。	1	B	B	習慣的学習態度を身につけさせ、建設系に対する興味・関心を高め学校生活を充実させる。資格取得の奨励と合格率を高める工夫を目指す。
		演習問題を数多く行い，レベルアップを図る。	1	B		
		製図や資格試験との関連性を重視した教科内容とし，図面の読み書き等が正確にできる基礎能力を養う。	2	B		
	資格取得実績の向上を図る。	二級施工管理技術者の学科試験が合格できるよう授業等を充実させる。	2	B		
		計算技術検定・情報技術検定3級の合格率80%以上を目指す。	2	A		
		競技会に参加する。	ものづくりコンテスト関東大会の出場を目指す。	2		
		各種コンペ競技に参加する。	2	C		
	安全の確保や事故の防止	安全教育の実施及び事故防止に向けた安全管理の徹底に努める。	10	A		
電子科	基礎・基本の徹底と個別指導による学力の向上を目指す。	基礎理論について，きめ細かに，そしてわかりやすく指導・説明する。	1	A	B	理解しやすい授業を展開し、基礎知識の定着および応用力の育成に努める。資格取得を奨励し合格率を高める工夫を目指す。
		知識の理解度や計算能力の達成度を十分に把握し，授業展開に注意を払う。	1	B		
		専門科目の演習問題を多く利用し，応用力をつけさせる。	1	B		
		座学と実習を関連させながら，理論と実際の成り立ちをわかりやすく説明する。	1	A		
	資格取得指導の一層の充実を図る。	様々な資格に関する情報を提供する。	2	B		
		放課後や長期休業期間等に，筆記試験および実技関連の課外授業等を行い，資格取得指導の充実を図る。	2	B		
	安全の確保や事故の防止	安全教育の実施及び事故防止に向けた安全管理の徹底に努める。	10	A		

※評価基準 A：大変よくできた B：よくできた C：ふつう D：やや不十分 E：不十分

教務	教育活動の公表に努める。	学校要覧, 学校案内パンフレット等を作成して, 開かれた学校教育活動に努める。	6	A	B	令和4年度からの新教育課程に合わせ学年・教科のグランドデザイン・年間計画の作成・評価の方法等の検討をする。公平性を確保しながら教科書の適切な選定をする。ICT環境整備に伴い、情報部に依頼して研修を実施していただく。
	授業時間数の確保に努める。	授業時間数を確保するため, 年休・出張時の授業の振替を徹底する。	11・12	A		
		学校行事の精選や特別編成時間割の活用で, 授業時間数を確保する。	11・12	A		
	資格取得実績の確実な伸長を図る。	各種検定試験の計画実施をとおして, 資格取得実績の伸長を図る。	2	A		
	基礎・基本の徹底と学力の向上を目指す。	わかりやすい授業展開に心がけ, 生徒の基礎・基本となる学力の向上を目指す。	1	B		
	研修を通して教員の資質の向上を図る。	人権教育や情報教育等に関する教職員研修会を実施し, 教職員の資質の向上を図る。	1・11	B		
	地域コンソーシアム設立に参画する。	地域コンソーシアムに関する企画・立案を行う。	5	C		
生徒指導	「挨拶」「服装・頭髪」等の基本的なマナーを身につけさせる。	朝の立哨指導, 服装指導を通して, 挨拶の励行や服装頭髪等の改善に努める。	3・4	B	B	交通事故の抑止および交通ルール遵守、マナー向上。職員間の共通理解を持った頭髪・服装指導の徹底。個々の生徒の生活状況の把握について、指導の徹底を図る。
		教職員巡回や各学年及び各校務部との連携により, 登下校のマナーの向上に取組む体制を構築。	3・4	B		
	社会の一員としてのモラルの高揚に努める。	バイク通学者指導・バイク点検・交通講話等を通して, 交通安全の意識を高め事故を未然に防ぐ。	4・9	B		
		盗難の頻発や許し難い器物破損等の行為については, 集会(学年・全校)・検査・保護者宛文書, 場合によっては警察に協力を依頼する。各校務部・家庭や関係機関との連携をはかる。	4・9	B		
心の教育の充実に努める。	定期的に被害(いじめ)調査などを実施し, 小さなサインを見落とさない体制を作る。	3・4	B			
	各学年・保健室等との連携をはかり, 生徒個々の密な情報交換に努める。	3・4・8	B			
進路指導	計画的・継続的な指導による進路意識の高揚を図る。	計画的な進路ガイダンスにより, 将来に夢や希望が持てる継続的な指導を図る。	1・2・3	A	B	ICTを活用し、効果的な基礎学力の定着と向上に努める。また、進路が主体となり、学校全体で生徒一人一人の進路実現を見据えた指導を確立させる。
		各種適性検査のデータやワークシート等の活用を通して, 各自の適性を知り職業観の定着を図る。	2・3	B		
		工場見学・インターンシップ等の実体験を通して, 勤労や職業に対する見方・考え方の形成を図る。	3・5	A		
	将来のスペシャリストとしての素養の熟成を図る。	教科・学年と連携し, 模擬試験等による系統的に学力が身に付く体制づくりをする。	1・2・3	B		
		職業資格の奨励により, スキルアップ・職業意識の高揚を図る。	2・3	B		
	外部との連携を充実する。	産業界や大学等との有効的なパートナーシップを築く。	3	A		
保護者への計画的・継続的な進路啓発活動に努める。		6	B			
情報提供を充実する。		「進路情報誌」及び「進路だより」の発行や求人票閲覧を工夫するなど, 的確な進路情報の提供を行う。	6	A		
地域コンソーシアム設立に参画する。	閲覧室の有効的な活用を図る。	3・5・6	B			
	地域コンソーシアムに関する企画・立案を行う。	5	C			
特別活動	自主性を育てる生徒会活動の活性化に努める。	文化祭を中心とした学校行事において, 生徒会・各委員会活動の自主的活動の活性化を促す。	7	B	B	地域との連携を深め、開かれた学校づくりに力を入れる
		生徒会新聞「志工」を行事ごとに発行し, 生徒を通じ地域や保護者等への広報活動を充実させる。	6	C		
	学校行事を積極的に公表する。	校外ボランティア活動に積極的に参加することを勧め, 地域とのつながりを密にする。	3・4	B		
		生徒が自ら考え行動できる生徒会活動の組織構築を行う。	7	B		
	キャリアパスポートの活用を図る。	LHR等においてキャリアパスポートを活用することにより, 生徒の主体的な進路選択を促す。	3	B		
地域コンソーシアム設立に参画する。	地域コンソーシアムに関する企画・立案を行う。	5	C			
厚生	学習活動に適した環境の整備と学校の安全の確保を図る。	日頃の清掃活動及び行事等の前に実施する大掃除を充実したものにし, 生徒の環境美化意識を高める。	7・10	B	A	感染症防止対策のためのAI検温感知システムの活用や換気・教室環境の整備を継続する。専門家や地域資源を利用した活動を通して、防災意識の定着、命の大切さや穏やかな心と健康な体を育む活動に取り組む。
		学校保健安全計画に基づき, 諸検査・安全点検・防火訓練等を実施する。	10・12	A		
		奨学金等の事務処理を確実に行う。	4	A		
	生徒の健康の維持・増進を図る。	学校保健安全計画に基づき, 健康診断や横診等を実施し, 結果についてはクラス担任や保護者と連携して対応する。	4	A		
		「保健便り」の発行や講演会を通じて, 生徒の健康や衛生に対する意識の向上を図る。	4・10	A		
		保健室の円滑な管理・運営に努める。	11・12	A		
		インフルエンザ等の感染症については, 学校医等の協力を得てその流行の防止に努める。	4・11・12	A		
	心身に問題を抱えた生徒への対応を図る。	生徒の保健室の利用状況を把握する。	1・12	A		
クラス担任, 学年, 教育相談部など関係部署と情報の交換等を行い連携する。		11・12	A			

※評価基準 A:大変よくできた B:よくできた C:ふつう D:やや不十分 E:不十分

図書	読書推進活動を図る。	適切な廃棄および計画的な新刊図書の入荷をとおし、季節感あふれる新鮮な環境づくりを心がける。	11・12	A	A	図書委員の自主的な活動を促し、読書推進活動をすすめる。
		新刊案内・ライブラリニュースの発行を通して、生徒および教職員の読書活動を推進する。	1・6	A		
		カウンター当番・館内整理・広報活動・地区研修会など図書委員の自主的な活動の活性化を図る。	6・7	B		
	視聴覚室の環境整備	各種機材の点検をし、利用しやすい環境を整える。	10	B		
涉外	関係諸機関との連携を図り、家庭教育の支援を推進する。	P T A会員に対する学習の機会及び情報の提供その他の家庭教育を支援するため研修、講演会やP T A新聞の発行等を行い広報活動に努める。	6	B	B	多人数での集会、研修会等が実施できない中、学校Webページや情報メール、P T A新聞等を活用した保護者への情報発信、提供を増やす。
		P T A会員相互の親睦を深めるとともに、P T A行事への参加率の向上を図る。	4・6	B		
	地域コンソーシアム設立に参画する。	地域コンソーシアムに関する企画・立案を行う。	5	B		
情報	校内外への情報配信に努める。	校外向けHP(PC版・Mobile版)の内容を充実させ情報伝達の充実を図る。	6	A	B	生徒個人購入の学習用端末の接続指導や活用について研究する。
		各科・各校務分掌と連携を図り、校内情報閲覧システム(生徒用Date-Net)や校内成績処理システム(e教務)を充実させる。	11・12	A		
		生徒指導部と連携し生徒・保護者を対象とした情報モラル講習を行う。	3・4	C		
	P C環境を整備する。	生徒活動に即したPC環境を整備し、校内PCの正しい利用を推進する。	1	A		
	地域コンソーシアム設立に参画する。	地域コンソーシアムに関する企画・立案を行う。	5	B		
活性化委員会	本校の教育活動を地域や中学校に伝え、活性化を図る。	学校公開を兼ねた公開実習を実施し、中学生や保護者に対して広報活動等の充実を図る。	5・6	B	B	地域との連携や学校説明会等をおして、学校の活性化に努める。
		県西生涯学習センターの地域行事に参加し、本校の広報活動に寄与する。	4・5・6	B		
第1学年	状況に合わせた服装、行動、言葉使いができるようにする。	自ら服装を正すよう指導する。	3・7・8	B	B	基本的な学力向上の指導、上級学年になることによる責任感の育成。個人個人の、より良い進路決定のための助言および支援に努める。
		人に感謝されるような適切な行動がとれるよう指導する。	3・7・8	B		
		相手により印象を与える言葉使いをするよう指導する。	3・7・8	B		
	進路目標を立てる。	自分の適性を理解し、早めに進路目標を立てるさせる。	1・2	B		
		学力向上及び資格取得につながる指導をする。	1・2	B		
		部活動をおとして気力及び体力を養い、将来の進路実現に向けて行動するよう指導する。	8	B		
	コミュニケーション能力を向上させる。	声に出してきちんと元気よく挨拶をさせる。	3・4	A		
人の話をしっかり聴きとり、相手の気持ちが理解できるよう指導する。		1・3・4	B			
	自分の言葉で、相手にわかるように意思を伝えるよう指導する。	1・3・4	B			

※評価基準 A : 大変よくできた B : よくできた C : ふつう D : やや不十分 E : 不十分

第2学年	コミュニケーション能力を高める。	声に出してきちんと挨拶させる。	3・4	A	B 言葉による意思の疎通を円滑に行う態度を身につけさせ、社会で求められる基本的生活習慣の定着と実践力の育成を図る。 自ら進路を考え、進路実現に向けた努力をさせ、学力や資格取得などの意識向上を促し、生徒一人一人が希望の進路に進めるように早めの指導に務める。
		人の話をしっかり聴き、内容を理解させる。	1・3・4	B	
		自分の言葉で相手に意思を的確に伝えるよう指導する。	1・3・4	B	
	進路目標を立てる。	進路ガイダンス等を通して、自分の適性を把握し、将来を見据えた目標を持たせる。	2	B	
		インターンシップを通して、仕事や企業に対する理解を深め、進路実現に向けた努力をさせる。	2・5	A	
		生徒一人一人に授業に積極的に参加させることで、学力向上を目指し自らの進路に向けた選択肢を増やす。	1・2	B	
	公共の精神や社会規範を尊重する意識や態度をはぐくむ。	課外授業等に積極的に参加させ、計画的に資格を取得させる。	1・2	B	
		正しい服装、行動、言葉遣いができる力を培う。	3・4・7・8	B	
		相手の立場で物事を考えて行動できる力を身につけさせる。	3・4・7・8	B	
責任感や自己解決能力を身に付け、リーダーシップをとれるよう指導する。		3・4・7・8	B		
第3学年	希望進路の実現を図る。	時間を厳守し、けじめのある生活をさせる。	3・4・7・8	B	B 生徒への働きかけを積極的に行い、将来の目標ををしっかり定めさせることで、進路への意識を高め、確実な自己実現に繋げる。併せて、規範意識と品格を向上させる指導も継続的に行っていく。
		生徒や保護者との面談や連絡を密にし、個々の進路希望を把握し実現に努める。	1・2・4	A	
		進路指導部と連携し、生徒への情報提供を充実させる。	1・2・11	A	
		日々の授業にしっかりと取り組ませ、進路実現のための学力を身につけさせると同時に、資格取得にも積極的に取り組ませる。	1・2	B	
	コミュニケーション能力の向上に努める。	進路に対応する模擬面接を繰り返し実施し、面接のスキルを身につけさせる。	2・3	A	
		声に出してきちんと挨拶ができるよう指導する。	3・4	B	
		人の話をしっかり聴き取ることができるよう指導する。	1・3・4	B	
		自分の言葉で相手に意思を的確に伝えられるよう指導する。	1・3・4	B	
	責任ある行動の推進と品格の向上を図る。	相手の言葉から気持ちを理解できるよう指導する。	1・3・4	B	
		最高学年としての自覚を持たせ、学校全体を牽引する意識を持たせる。	3・4・7・8	B	
学校行事への主体的な取り組みを重視し、自ら進んで行動し、課題を解決する能力を培わせる。		3・4・7・8	B		
	場に応じた服装、適切な言葉遣い、感謝される行動ができるようになることで品格の向上に努める。	3・4・7・8	B		

※評価基準 A：大変よくできた B：よくできた C：ふつう D：やや不十分 E：不十分